八上輝きの里づくり協議会
コミュニティー計画書



八上姫の里　**売沼神社**

平成 22 年　鳥取市 河原町 八上地区

令和8年4月 12 日改定

目　次

序　章

はじめに

第一章

地区の現状と課題

第二章

将来像と里づくりの方針

第三章

主要施策と体制

序章　はじめに

平成 16 年 11 月に河原町は鳥取市と合併して、新鳥取市が誕生しました。

第８次鳥取市総合計画（平成 18 年～平成 22 年）「人が輝き、まちがきらめく快適環境都市・鳥取」の中で市のまちづくりの 5 つの原則が示されています。

１．「個性」を活かしたまちづくり

２．「連携・交流」による活力にあふれるまちづくり

３．市民が主役の「協働」によるまちづくり

４．自己決定による「自立」したまちづくり

５．世界と手を結び未来へ「飛躍」する夢のあるまちづくり

平成 20 年度は、協働のまちづくり元年であるとして、地区公民館を生涯学習並びに地域コミュニティの拠点施設として活用することとの基本方針を示しています。

そして、協働のまちづくり推進のために市職員を 61 のコミュニティ支援チームに編成して、各地域での公民館を中心としてのまちづくりが始まることとなりました。

平成 20 年 4 月に八上地区公民館に於いてコミュニティ支援チームと公民館との初めての会合が持たれてから、まちづくり協議会設立に向けて準備会の設立、そして、2 年後の平成 22 年 3 月に設立総会を持ち、「八上輝きの里づくり協議会」が立ち上がりました。

これに伴い公民館職員が増員されるなど市の支援体制が強化されています。

このように行政主導で立ち上がったまちづくり協議会ではありますが、これからの主役は、八上の地に生きる私達一人一人であることの自覚を強く持ちたいものだと思います。

「八上輝きの里づくり協議会」コミュニティ計画の作成にあたっては以下の点に留意し、検討を重ねてきました。

１．地域が主体となって作り上げる、地域のための計画であること

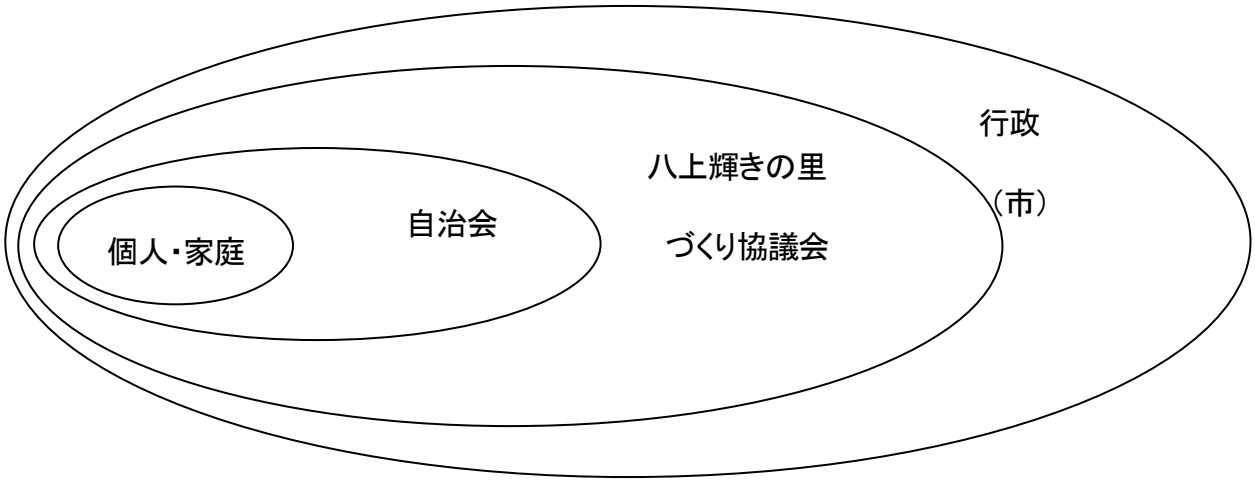
２．地域住民のアンケート結果等を十分に考慮した計画であること

３．地域の住民一人一人が主役のまちづくり計画であること

八上地区の文化･伝統を引き継ぎつつ、豊かな自然を活かした誰もが住みやすいと思われる夢のある地域をつくり、子々孫々に引き継ぐことを目標に、まちづくり計画の検討を重ねてきました。

平成 22 年 10 月
八上輝きの里づくり協議会
会長　　林　正昭

◎　「八上輝きの里づくり協議会」（イメージ図）



自治会が中心となって、地域内の個人、団体、法人等が参画して、様々な地域課題を解決していくことが、八上輝きの里づくり協議会に期待されていることです。

ふるさとの風景









第一章　地区の現状と課題

１、将来への懸念

全国的な少子高齢化、環境や経済の悪化と「農業崩壊」へのカウントダウンが始ったとも言われています。この状況は、八上地区も例外ではありません。この地域に住む私たちは、この現実を日々痛感し、日々憂いながら過ごしています。将来を見据え、未来の子どもたちに豊かな八上地区を引き継ぐにはどうしたらいいか、今出来ることは何か？何から始めたらいいのかと、真剣に考えています。

２、産業・農業・農地環境について

農業従事者の高齢化、「農業を継げ」とわが子に言えない環境の下、八上地区でも休耕地・耕作放棄地、他地区と同様に例外ではありません。農業環境の破壊は、自然環境や地域環境の崩壊に直結するものですが、八上地区にあっては農業以外に目立った産業が見当たらないのが現状で危機感をもっています。

集団営農、法人化、人材センターの設立など農業経営の効率化・組織化・安定化を図ることや、特産品の開発など、地域の中心産業である農業の振興は大きな課題です。専業主婦は一割にも満たず、共働きでないと生活できない現状では地区内のその他の産業の活性化を図るとともに、若者の定住促進対策は八上地区地域にとっても重要な課題であると共通認識しています。

３、自然環境について

自然が豊かであることは、私たちの誇りです。しかし、農業の衰退傾向は明確で、山地や平地を問わず荒地が目立ち、地区内の浸水想定区域等への懸念もある中で、河川や山林の手入れ、不耕作地・耕作放棄地が目立つようになり、現状把握のアンケートによると、ゴミや空き缶ポイ捨てゼロ運動などの幅広い取組みが必要との意見も多くあるのも現状です。

４、高齢化の進行について

地域の高齢化率が高い中、受診や買い物、預金引き出し等など、地区内では簡単に出来ない現状にあり、高齢者が安心・安全から遠い存在に置かれている現状があります。一方で、登下校の子どもの見守りや畑地の管理など、高齢者にかかる負担は増すばかりです。

昼間の高齢者率は更に高くなることから犯罪や災害に対する心配も無視できません。

防犯・防災対策や健康対策をはじめ、高齢者の活動支援、高齢者の見守りや日常生活のサポート体制の確立、交通手段確保の取組みは、高齢者の切実な課題であり、それ以外の人にとっても必要かつ、重要な課題となっています。

５、公共施設の整備について

八上保育園は、平成 22 年 4 月で廃園となりました。ＪＡ八上支所に続き地区内の公共施設は次々と消えていき、金融機関、保育園、商店、飲食店など日常生活と切り離せないものが地区内から少なくなっていきます。自家用車主体の生活スタイルには対応できない交通弱者を守る課題についても、八上地区が例外ではありません。

そんな中で地区公民館は、唯一残された公共施設となってしまいました。その整備・充実は、地区にとっては、重要なこととなっています。又、スポーツ広場・八上姫公園の機能維持も強く望まれています。

６、住民間のつながり

「住民のつながり」は、多くの身近な課題を解決していく力の根源になっています。職場や家庭内の多忙化で様々な負担が増え、地域活動に参加している方、いない方双方からの正直な意見として「出来るだけ地域での付き合いは減らしたい」との意見もあります。

無理な強制は、結局、継続の最大の障害となります。出来る時に、出来る力を集める事こそが重要と思います。先人達は、お互いが出せる力量をお互いが認め合い、その力を集め積み重ねて今日の「住民のつながり」を築いてこられました。「住民のつながり」は、各個人が行う地域での活動を、生きがいまでにも高めてもくれます。八上地区の先人たちが築き上げ、守り続けてきた「住民のつながり」を更に強めながら、「輝きの里づくり」を進めていきます。

第二章　将来像と里づくりの方針

地区の将来像

人と自然と共生する豊かで活力ある八上地区とするために、自然に恵まれ、地区住民にとって快適で心豊かな、そして活力にあふれた生活環境を実現するため、この豊かな自然基盤をまちづくりの資源として活用することが大切である。

住んでよかった、いつまでも住み続けたいと思う地域づくりは、資源（地区住民･自然･産業）の活用と調和（共生）から新しい地域の魅力と活力のある施策の展開を図る必要があることから、地区の将来像を定めるものです。

やさしさに・かんしゃ・みんなの・やかみ

八上地区の将来像を実現するための分野別の３つの里づくりの方針

1　「人を大切にする、やさしい心が育つまち」

子育て、人権、教育、文化、福祉

2　「自然を大切にし、人々が安心して暮らせるまち」

自然環境、安心安全（防犯、防災、危険箇所、交通安全）

3　「暮らしを大切にし、魅力ある産業が確立されたまち」

コミュニティ、生活基盤の整備、交流、産業（農業、観光、商業）

第三章　主要施策と体制

夢や思いを目標に（基本目標と施策）

１、子どものはじける声に躍動する“里づくり”

基本目標(1) 子どもたちのふれ合いの場をつくる

施策　＊各種交流事業の充実　＊子ども会活動の支援・遊び場の整備

基本目標(2) 子どもたちの見守り活動の実施

施策　＊地域パトロールの実施　＊登下校（通学路、バス停など）の見守り　＊あいさつ運動

基本目標(3) 学校・家庭・地域の連携強化

施策　＊情報交換・子育てなどの相談の場を設ける

＊地域安全マップ作成　＊通学路の防犯灯の整備

２、お年寄りの笑顔で和む“里づくり”

基本目標(1) 高齢者の活動の積極的支援

施策　＊老人クラブ活動の支援、高齢者交流の場を設ける

＊シルバー人材センターの地区内立ち上げ

基本目標(2)　高齢者の見守りとサポート活動

施策　＊高齢者の見守り運動　＊日常生活への近隣でのサポート体制確立

＊情報化社会に対応する支援　＊災害時の支援体制確立

基本目標(3)　交通手段の確保

施策　＊公共交通機関の確保　＊福祉バスなどの検討

３、美しい自然と魅力にあふれた“里づくり”

基本目標(1) 八上の自然と歴史を再確認し、その魅力を内外へと広める

施策　＊八上地区の自然・史跡・伝統行事などを再確認し、他地域との交流などにより、

その魅力や価値を住民や他地域の人々に広めていく

（特に、八上姫伝説を核とした活性化に取り組みたい）

基本目標(2) 八上の自然を守る

施策　＊河川や山林の手入れ・美化活動　＊集落単位で自然保護の目標を持つ

基本目標(3) 八上の環境美化推進

施策　＊花いっぱい運動　＊一斉ゴミ拾い運動　＊自然を守るエコ活動・学習

４、安心と安全に包まれ、穏やかに暮らせる“里づくり”

基本目標(1)　災害に備える体制づくり

施策　＊防災体制の確立　＊危険箇所の周知や避難について住民への周知

＊防災マップの作成　＊防災訓練の実施

基本目標(2)　防犯活動の推進

施策　＊街灯の整備　＊パトロールの実施　＊詐欺・悪徳商法への備え

５、美しい農村集落と活気に満ちた“里づくり”

基本目標(1) 元気ある農業の復活と農地を維持管理できる体制づくり

施策　＊集落営農　＊地域営農の実現の研究　＊特産物の開発と販売ルートの研究

基本目標(2) 農業後継者の育成

施策　＊リーダーの養成　＊ＩターンＵターンの受け皿づくり　＊農業所得向上運動

基本目標(3) 農業を理解し食の文化を広める

施策　＊農業体験を積極的に広げる　＊農業の技術や知恵を継承する

＊食の大切さ・安全の学習

基本目標(4) 地域の産業を知ることにより地域を誇りに思い「住み続けたい」という意識を育てる

施策　＊地元の事業所や施設の見学など

６、若者が定住する“里づくり”

基本目標(1) “ふる里”に愛着を持つ

施策　＊まち協・公民館の事業への参加を促す

基本目標(2) 若者同士がつながる

施策　＊次世代を担う若い世代のグループ・サークルづくりを支援する

基本目標(3) 進化を続ける

施策　＊他地域との交流・情報交換で新しい考えや取り組みを知る

＊異世代交流を盛んにする

７、一人ひとりを大切にし、一人ひとりが参加する“里づくり”

基本目標(1) 住民参加の交流・行事の充実

施策　＊地区敬老会の充実　＊地区運動会の充実　＊各種イベントの充実

＊人権啓発・男女共同参画学習の場を設ける

基本目標(2) 各集落内の交流・行事の充実

施策　＊活動や行事の継承　＊近隣同士の声かけ・助け合い体制確立　＊サークル育成

基本目標(3) 地域の核となる「人と施設」の確立

施策　＊リーダーの育成　＊“里づくり協議会”役員・集落代表の研修

＊地区・集落公民館の充実

基本目標(4) 住民の学習の場を提供する

施策　＊生涯学習の一環として地区内外での住民に向けた学習会・野外学習を行う

目標を行動に（実施計画）

基本目標、施策は内容が多岐にわたっていますのですべてを同時に事業化することはなかなか出来ません。そのため、これまで取組んでいる事業を改変・充実させることで実現が図られるもの、今すぐに着手可能なもの、緊急を要するものと、順次、協議会の各年度の事業計画に具体化して取組みます。

実施計画１、八上地区を調べ、学び、記録する

＊地区内に存在する遺跡・史跡などを周知し保護する機運を高める　＊広報・ホームページに掲載
＊住民のための地域学習会・野外学習会の開催

実施計画２、老人クラブ活動・高齢者支援活動の支援を行う

＊グラウンドゴルフ練習会・同各種大会人的支援　＊勉強会の手助け・呼び掛け
＊高齢者サポート活動の検討と支援

実施計画３、高齢者の見守り・支援を行う

＊健康づくりや安心できる暮らしのための講演の実施　＊高齢者への畏敬・サポートの意識を高める

実施計画４、中・高校生や若者の事業への参加・協力

＊中・高校生の、地区運動会・ふるさと祭り運営への参加・協力を求める

実施計画５、若者の地域活動への積極的な参加を促す

＊文化・伝統の継承のため積極的に地域行事に参加してもらう

実施計画６、地区の人権尊重の意識向上のため、八上地区人権教育推進協議会との連携を図る

＊小地域座談会をはじめとする人権啓発事業へ協力し、参加を促す

実施計画７、地域の環境美化活動を推進する

＊共有施設の草刈・清掃活動、ごみポイ捨て防止の呼びかけなどで自然環境を守る意識を高める
＊山地への植樹活動

実施計画８、地域の安全を守る活動を推進する

＊地区自主防災会の機能を充実させる　＊地区の人々のため集落別防災マップの作成
＊住民の防災・減災への意識を高め、万一に備え防災用品の備蓄に努める

実施計画９“里づくり協議会”の組織拡充と力量の向上を図る

＊委員・役員をはじめリーダー研修会・情報交換会や先進地視察の実施
＊行政が進める地域活動支援・助成制度の勉強会の実施

実施計画 10 “里づくり協議会”について住民に周知を図り、意見の集約を進める

＊機会ある毎にアンケートを実施　＊会報誌による広報活動　＊住民の意見を聞き取る活動

実施計画 11、農業振興への支援試行活動を進める

＊若い世代の家庭菜園参加支援
＊農業継承のため、若者を対象にした学習会を行う

事業実施の後に（反省と評価、次の計画）

計画を実施した後で、参加者や地域の皆さんの意見・感想をもとに評価と反省を行います。

最終的には、総会で総括を行い課題や問題点を確認していきます。そして、その内容を次の取組みに生かし、未実施の目標・計画とあわせながら事業計画を立案していきます。また、“里づくり協議会”として、定着させていく事業の選定も進めます。

このコミュニティ計画の見直し・修正を求められるときは、必ず来ると予測されます。時間の経過や環境の変化により、見直されるのはむしろ当然の事と考えます。この「コミュニティ計画」は目的ではありません。この計画は、“里づくり協議会”の活動を進めるための、地区住民の皆さんの覚え書きとしての位置づけと考えています。

みんなで取組み、総括を重ね、計画を練り直しながら

「時代にあった里づくり」を常に意識して事業推進を行います。